

科目名	作業療法評価学実習 I ①			授業の種類	実習	講師名	
授業回数	23 回	時間数	45 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 前期
【授業の目的・ねらい】 作業療法の身体領域で使用されている評価と評価法に関する知識及び技法を演習を通して学習する。							
【実務者経験】 作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 実技を中心とする。それに関する必要な知識・技術に関しては学生達も演習を実施する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法の身体領域で使用されている評価と評価法に関して説明でき、実技を実施することが出来る。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	評価とは、形態測定①						
2	形態測定②						
3	関節可動域測定①						
4	関節可動域測定②						
5	関節可動域測定③						
6	関節可動域測定④						
7	関節可動域測定⑤						
8	関節可動域測定⑥						
9	関節可動域測定⑦						
10	脳神経①						
11	脳神経②						
12	反射①						
13	反射②						
14	姿勢反射						
15	OSCE課題 1						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学作業療法評価学第3版 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版							
【準備学習・時間外学習】 作業療法士にとって評価する技術はなくてはならないものです。よって習う内容も多く、日々の復習と内容の理解を怠らないようにしてください。理解した知識が実技につながっていくことを意識しながら学習することがポイントです。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 評価学は小テストを10点、実技試験を40点として計50点、OSCEは筆記試験（3課題全て）を30点、実技試験を20点として計50点、合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する。							

科目名	作業療法評価学実習 I ②			授業の種類	実習	講師名	
授業回数	23 回	時間数	45 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 前期
【授業の目的・ねらい】 作業療法の身体領域で使用されている評価と評価法に関する知識及び技法を演習を通して学習する。							
【実務者経験】 作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 実技を中心とする。それに関する必要な知識・技術に関しては学生達も演習を実施する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法の身体領域で使用されている評価と評価法に関して説明でき、実技を実施することが出来る。							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	OSCE課題 1						
17	OSCE課題 1						
18	OSCE課題 2						
19	OSCE課題 2						
20	OSCE課題 2						
21	OSCE課題 3						
22	OSCE課題 3						
23	OSCE課題 3						
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学作業療法評価学第3版 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版							
【準備学習・時間外学習】 作業療法士にとって評価する技術はなくてはならないものです。よって習う内容も多く、日々の復習と内容の理解を怠らないようにしてください。理解した知識が実技につながっていくことを意識しながら学習することがポイントです。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 評価学は小テストを10点、実技試験を40点として計50点、OSCEは筆記試験（3課題全て）を30点、実技試験を20点として計50点、合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する。							